

寺子屋とその師匠

史学班（徳島史学会）

稲飯 幸生*

要旨： 旧東祖谷山村という山間地域にあつての寺子屋の状態、師匠の活動の様子などについて調査をする。また、寺子屋が廃止された後、小学校が開設されるが道路状況、通学距離、児童数の変化などにより、分校、分教場が開設されるがその経緯について調査する。

キーワード： 寺子屋師匠7名、各小学校（5校）

1. はじめに

この村の寺子屋とその師匠については、『日本教育史資料』（明治25年・文部省蔵版）にはその記載がない。隣村の西祖谷山村には1名の寺子屋師匠があったが、その師匠の喜多肇も開業が明治2年で廃業は明治5年（1872）の短期間である。

ちょうどこのころは小学校の開校時期にもあたっているのので、どのような状況の寺子屋であったか推測しにくいところがある。

文部省の調査に寺子屋の記載がないこと、あつても短期間であること、師匠の墓に「門弟中」の文字が刻まれたものがないことなどを考えあわせると、旧東祖谷山村の寺子屋は他の市町村と違ったあり方であったと想像される。

『東祖谷山村誌』（以下村誌と記す）には「祖谷には古くから御屋敷・御土居といった旧家があり、これらの家筋では、親ゆずりの私学が代々継承されていたものと思われるが、一般庶民の教育については何等なされていなかったようである。」と記載されている。「親ゆずりの私学」とははっきりわからないが、各家に残されている古文書などの内容を親が子に伝えたのであろうか。

このような状況のなかでも藩政末期になると、各地域に寺子屋らしき活動が行われるようになった。村誌には寺子屋の師匠は7名が挙げられているが、そのうち村外出身者が4名を占めている。7名のうち後裔の方が祖谷に住んでおられるのは現在では2名である。また、村外に出られた方の内で住所の確かめられた方は3名で、残りの2名については消息不明である。

2. 寺子屋の師匠

○阿佐（喜多）操

明治6年4月2日生まれ。医師である。若くして医業を開く。落合の喜多家を相続し医業の傍ら子弟を教えた。本業は医師であるが政治家として活躍した。その業績は次の通りである。

・村長を2回務めた。

明治35年4月～明治35年7月

昭和2年7月～昭和8年3月

最初の村長を退職した後、大正2年から同10年まで村議会議員を務めた（『村誌』）。

また、郡会議員として明治36年10月10日より大正12年まで選出されている。

このような多忙ななかで家にあつては、子弟の教

* 神山町下分

育にも励んだのであろう。

昭和8年3月18日没した。国道439号の傍らにある落合墓地に養父の操達の横に葬られている。墓の正面には「俊徳院国光道源居士」とあり、向かって右側面には「昭和八年三月十八日、旧二月廿三日」とあり、左側面には「俗名 操 行年六十一才、喜多義美養父」とある。ちなみに操の養父操達は明治42年（1909）旧8月21日に没しておりその墓は操が建てている。



写真1 阿佐操の墓

○前田速之助

土佐の香美郡奈呂（現高知県香美市香北町猪野之）の旧家に生まれたが、若くして菅生（すげおい）に移住し土地の庄司ペンと結婚して農業を営む傍ら寺子屋を開いた。厳格な人で居間では正座を常とし村内を廻って学問をすすめる、源氏物語を講義したとも伝えられている。家で酒を売る商売を始めたが、自分も酒好きで朗らかな一面もっていた。没前まで「ちょん髷」を結い村でも有名であったという。

昭和11年9月18日（旧8月3日）没した。87才であった。墓は菅生墓地にあったが現在では自宅の上段の前田家墓所の新しい累代墓に葬られている。前田宅は現在速之助より4代目の浩・茂子夫妻が家を守っておられるが、昭和38年（1963）に火災に遭い寺子屋関係の書籍その他は残っていないという。速之助の寺子屋は自宅下の国道439号沿いの現在は車

庫になっている場所にあった。

現当主の浩の叔父に当たる前田忠悦氏（分家）は村長を2回務めている。（昭和38年5月～42年4月、昭和50年（1975）5月～54年4月）。

○井上倉次

明治10年（1877）頃自宅を開放して寺子屋を開いた。明治41年（1908）旧3月14日没した。75才であった。

後裔の治は昭和48年（1973）に東みよし町加茂に転住されている。倉次から治までの次のような系統である。

倉治－春吉－清造－善明－治

善明は村会議員を務め、治は東みよし町加茂小学校長を最後に退職した。

○岡田清三郎

岡田家は代々西山に住んでいた。清三郎は弘化4年（1847）7月21日生まれである。

久保尋常小学校は地域の子供にとっては遠隔通学になるので、自宅を西山分教場として自ら教授し、後に教員の派遣を得たという。この分教場は明治34年まで継続した。大正6年（1917）5月21日没した。

後裔の方は佐馬地（現・三好市池田町佐野）へ昭和27年（1952）に移られた。

○伊藤政吉

生国は美濃といわれている。京上（きょうじょう）の向側に住す。

大正6年5月21日に82才で没した。後裔の方については消息不明である。



写真2 前田速之助の墓

○谷口宇三郎

生国不明。最初に新居屋で代書業をつとめたが、後に名頃に移り、夜学で算盤などを教えたという。

山越えで徳島市へ出る途中大藤峠で凍死した。

子のコハルは大正10年(1921)に村を出て高知県吾川郡伊野町(現・いの町)に住んだといわれている。

○田岡吉三郎

東三好町辻の出身。麦生土^{むじゅうと}で寺子屋を開く。後裔の方の消息は不明である。

3. 寺子屋より小学校へ

明治5年(1872)の学制頒布により小学校の創立が義務付けられたが、これに対応するための各市町村の苦勞は大変であった。この村は遠距離の通学路、急坂多い道路状況という環境にあり、それを解決するために分校・分教場の設立が考えられている。

明治8年(1875)発行の文部省年報・第三年報・第2冊(明治41年1月復刻)には、東祖谷山村内には次の10校の小学校があったことが記されている。

大枝小学校、久保小学校、林小学校、阿佐小学校、小川小学校、奥井小学校、釣井小学校、落合小学校、西山小学校、今井小学校である。

すべて明治7年設立で久保小学校は寺院を借用、他の9校は民家を借用したとある。

生徒数は大枝小学校が最も多く28名で、少ないのは林、西山両小学校で8名である。教員はすべて男子1名で、大枝小学校のみは授業料を徴収している。

以上の小学校の状況は村役場から県を通じて文部省へ報告されたとおもわれるが、その根拠についてははっきりしない。このあとに記載する各小学校の沿革史とも付合しない点もある。

県下の他の市町村の例を見ても同様であるが、民家・寺院・神社を借用していた寺子屋に小学校の名を付して体裁を整えて報告したものも分からない。

その後、村の教育に対する努力は大変であった。生徒数の増減や遠隔通学路の問題などがあったのであろうが、分校の改廃問題も含めて現在の5小学校に至るまでの経緯は複雑である。戸長・村長の仕事のうち重要なことは里道(村道)の開削と学校問題の解決であったと言われているが(『村誌』)、教育に対する村当局ならびに村民達の努力は涙ぐましいものがあった。

次に村誌ならびに各小学校の沿革史によってその複雑な変遷を見ることにした。

明治5年	釣井 ^{つるい} 小学校に元井、今井、和田の三分教場開設
同 年	大枝 ^{おおえだ} 小学校に釜ヶ谷 ^{かまがたに} 分教場開設
同 年	小川小学校に阿佐分教場
明治6年	大枝、小川に小学校開設(民家借用)
明治7年	前述の10校の小学校創立し、文部省へ報告
明治17年	大枝小学校西山分教場開設
明治18年	大枝小学校に菅生分校開設(岩本氏宅、菅生氏宅、円福寺、竹橋氏宅、田村氏宅にて授業)
明治20年	小島 ^{おしま} 小学校創立
明治22年	落合簡易小学校創立
明治34年	落合小学校深淵分教場・西山分教場開設 菅生 ^{すがせい} 小学校創立
明治36年	落合小学校に久保小学校を合併
明治42年	菅生 ^{なごろ} 小学校名頃分教場開設
明治43年	落合尋常小学校新築創設 大枝 ^{かまがたに} 小釜ヶ谷分校 ◇ 栗枝渡 ^{くりしと} 分校 久保小 ◇ 西山分校 以上4校を統合
明治44年	落合小に高等科併設
明治45年	栃之瀬 ^{とちのせ} 尋常高等小学校新築創立 大枝尋常高等小学校 小川尋常小学校 ◇ 阿佐分校 釣井尋常小学校元井分校 以上4校を統合
大正5年	菅生小名頃分校ならびに落合小深淵分校を開設
大正6年	深淵 ^{みぶち} 分校に高等科開設
大正12年	和田尋常高等小学校開設 釣井尋常小学校 小島尋常小学校 以上2校を統合
昭和5年	菅生小に高等科併設
昭和9年	落合小学校深淵分校焼失
昭和12年	落合小学校深淵分校新築
昭和54年	名頃小学校創立

